

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(29年度:計画作成主体:大潟村地域農業再生協議会)(秋田県)

取組の概要

対象品目 : タマネギ
主な取組主体 : 大潟村農業協同組合
ほか農業者・農業法人8名
成果目標 : 単位面積あたりの販売額
10%以上の増加
基準 (H29年度) 71.5千円/10a
目標 (R2年度) 205千円/10a
水田面積 : 11,755ha (タマネギ作付目標129.3ha)
取組内容 : 整備事業(集出荷貯蔵施設、スチールコンテナ、選果設備)
生産支援事業(移植、収穫、運搬に係る農業機械のリース)



秋田県大潟村

総事業費 : 837.4百万円
うち国費 : 372.1百万円
村費 : 16.3百万円
その他 : 449.0百万円

産地体制

JA大潟村が集出荷貯蔵施設を整備するとともに、中心的な経営体においては、これまで小規模に行っていたタマネギ栽培を、ほ場での大規模栽培にすることで生産拡大を図る。

本計画は、県、大潟村、JA大潟村、地元農家が一体となって事業を推進する。

地域における独自の取組

〈主な取組〉

地域の農業所得増大に向けた新規作物の導入を推進する。

- ① 安定的な品質確保と農業者の乾燥設備等の投資削減と労力軽減のための共同利用施設の整備と長期的品質維持による有利販売。
- ② たまねぎの生産に必要な農業機械の貸し出し。
- ③ 栽培面積拡大のために必要な農業機械の導入

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

大潟村の農業は、米に大きく依存している。これまでは大規模圃場という条件を生かし、稲作を基幹とした大型機械化一貫体系が確立されており、生産性の高い農業を行ってきたが、消費者・実需者ニーズの多様化、流通形態の大きな変化の中で、今後米をはじめとする農畜産物の価格低下が予想される。

日本の食料生産基地として、今後の村の農業を支えて行くため、田畑複合経営を行う農業者が増えている。本事業において「タマネギ」の一大産地化を目指すことで、地域の農業所得増大を図る。

取組成果

【事業実施による効果】

タマネギの集出荷貯蔵施設(タマネギ乾燥・貯蔵・調整施設、生食用選果関連設備)の整備と播種機・収穫機器等の農業機械の導入・貸し出し
⇒ 安定的な品質確保、農業者の労力軽減による所得向上

単位面積当たりの販売額が約2.4倍アップ
令和2年度実績 174,640円/10a
(目標達成率 77.3%)

